

女王谷の結婚式—花嫁とその付き添いたち



■ 昔からの伝統を多く残す丹巴

女王谷（現在ギャロンと呼ばれる地域のチベット語の原名“Gyalmorong”の意訳）の結婚式は秋の収穫後から春の農作業前迄の間に彼方此方で見られます。中でも異民族との戦争による文化破壊が少なかった丹巴の結婚式は昔からの伝統を多く残しています。

写真はギャロンで最も古い言語形態を残しているとの説が有る旧ゲシザ（昔のギャロン四大領主の1つ）地域における結婚式の様子です。

婚礼の日、花嫁の家には朝早くから親戚達が集まって祝福の言葉と祝金を贈り宴席で祝います。

男性の民族衣装は隣接するカムやアムド等のチベット文化圏のそれに似通っていますが、女性の民族衣装は女王谷独特の艶やかなものです（四姑娘山の有る小金等とはかなり違います）。結婚式に向かう花嫁は、祖先を運んで来たと言われるチョンと呼ばれる大鳳鳥（ガルダの一種）の絵を描いた札を掲げて歩き、この札を花婿側が用意した宴席の中央に飾ります。花嫁が花婿の家に着いた時、花嫁は実家から持って来た土を門前に設えられた祭壇に撒きます。また花嫁と親戚達は花婿の家の門前に置かれたトウモロコシ等を手に取って撒き、それを跨ぐ仕草をしてから家に入ります。

結婚式の宴席は花嫁側と花婿側の2部に分かれて設けられます。宴会は大なり小なり数日間続けられます。

注：女王谷の言葉はチベット文化の専門家には知られていますが一般的には知られていません（丹巴では観光用に創作された「美人谷」の方が有名です）。

私は専門家ではありませんが、チベット文化学者の山口瑞鳳さんが書かれた下記の著書等で女王谷を知りました。

「東女国と白蘭」, 東洋学報, 第54巻3号, 1971.
「ヤルルン王家の遠祖」, 吐蕃王国成立史研究, 岩波書店, 1983.

▶ 下記のサイトで女王谷の情景を紹介していますので、ご参照下さい。
女王谷 <http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/queenvalley.htm>



婚礼の朝、花嫁の家に集まった親戚達。小麦を発酵させた自家製ビール(中央)も置かれています。



花婿の家に設けられた宴席。小麦の種を撒いて厄払います(中央)。



花婿の家へ向かう花嫁の親戚達の行列。



披露宴で花嫁の親族達を労う花婿側の世話人

● 以前のわんりに掲載済みの「写真便り」はこちらにあります
<http://wanli.web.infoseek.co.jp/ookawasan/essey-title.html>

● 大川さんの他のホームページはこちら
<http://www.sgns.gov.cn/scholaweb/conts.htm>
<http://kawamoto1940.web.fc2.com/>